

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。 May 9, 2012 加藤厚

①

「草昧の時代」には「自然に逆らうような大それた企て」はせず、「天変によって破壊されるべき」造営物もなかった。

②

「文明が進むに従って」、自然に抗して作った「造営物」が「位置エネルギーを蓄積させ」却って「災害を大きく」した。

③

「もう一つ文明の進歩のために生じた」変化に「分化」の結果として「部分の傷害」が「致命的となりうる恐れ」がある。

④

「単細胞動物」では「切断しても」「生命を持続」できるが、「高等動物」は「融通がきか」ず「生命を失」いかねない。

⑤

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。

①

「草昧の時代」には「自然
せず、「天変によって破壊

②

「文明が進むに従って」、
「位置エネルギーを蓄積

③

「もう一つ文明の進歩のために生じた」変化に「分化」の結果として「部分の傷害」が「致命的となりうる恐れ」がある。

④

「単細胞動物」では「切断しても」「生命を持続」できるが、「高等動物」は「融通がきか」ず「生命を失」いかねない。

⑤

「ここで一つ考えなければならないことで、しかもいつも忘れられがちな重大な要項がある。それは、文明が進めば進むほど天然の暴威による災害がその激烈の度を増すという事実である。」の段落は、①～⑤のどこが最適？

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。

①

「草昧の時代」には「自然
せず「天変によって破壊

②

②を選んだ人も多いのでは？

「文明が進むに従って」、
「位置エネルギーを蓄積

③

「もう一つ文明の進歩のために生じた」変化に「分化」の結果として「部分の傷害」が「致命的となりうる恐れ」がある。

④

「単細胞動物」では「切断しても」「生命を持続」できるが、「高等動物」は「融通がきか」ず「生命を失」いかねない。

⑤

「ここで一つ考えなければならないことで、しかもいつも忘れられがちな重大な要項がある。それは、文明が進めば進むほど天然の暴威による災害がその激烈の度を増すという事実である。」の段落は、①～⑤のどこが最適？

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。

May 9, 2012
加藤 厚

① 「草
せ
② 「文
「位
③ 「も
果
④ 「単
「高
⑤

寺田寅彦 天災と国防 - Microsoft Internet Explorer
アドレス http://www.aozora.gr.jp/cards/000042/files/2509_9319.html ファイル(F)

地震津波台風のごとき西欧文明諸国の多くの国々にも全然無いとは
ひんぱん げきじん
言われなくても、頻 繁にわが国のように劇 甚な災禍を及ぼすこと
ははなはだまれであると言ってもよい。わが国のようにこういう災禍の
頻繁であるということは一面から見ればわが国の国民性の上に良い影
響を及ぼしていることも否定し難いことであって、数千年来の災禍の試
練によって日本国民特有のいろいろな国民性のすぐれた諸相が作り上
げられたことも事実である。

しかしここで一つ考えなければならないことで、しかもいつも忘れられ
がちな重大な要項がある。それは、文明が進めば進むほど天然の暴威
による災害がその劇烈の度を増すという事実である。

人類がまだ草 昧の時代を脱しなかったころ、かんじょうな岩
そうまい
の中に住まっていたとすれば、たいていの地震や暴風
たろうし、これらの天変によって破壊さるべきなんら
合わせなかったのである。もう少し文化が進んで小屋を

原文では

よ
が
結

ページが表示されました インターネット

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。

May 9, 2012
加藤厚

① 「草」

② 「文」

③ 「も」

④ 「単」

⑤ 「高」

「ま」

「が」

「結」

寺田寅彦 天災と国防 - Microsoft Internet Explorer

アドレス http://www.aozora.gr.jp/cards/000042/files/2509_9319.html

地震津波台風のごとき西欧文明諸国の多くの国々にも全然無いとは
ひんぱん げきじん
言われなくても、頻 繁にわが国のように劇 甚な災禍を及ぼすこと
ははなはだまれであると言ってもよい。わが国のようにこういう災禍の
頻繁であるということは一面から見ればわが国の国民性の上に良い影
響を及ぼしていることも否定し難いことであって、数千年来の災禍の試
練によって日本国民特有のいろいろな国民性のすぐれた諸相が作り上
げられたことも事実である。

しかしここで一つ考えなければならないことで、しかもいつも忘れられ
がちな重大な要項がある。それは、文明が進めば進むほど天然の暴威
による災害がその劇烈の度を増すという事実である。

人類がまだ草 昧の時代を脱しなかったころ、かんじょうな岩
そうまい
の中に住まっていたとすれば、たいていの地震や暴風
たろうし、これらの天変によって破壊さるべきなんら
合わせなかったのである。もう少し文化が進んで小屋を

ページが表示されました

インターネット

原文では
確かに①
ですが...

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。 May 9, 2012 加藤厚

1. 原文は(「答え」ではあっても)「_____」にはなりません。

2. “応用”には「_____」※が不可欠です。
※

3. p.23 1 (3)の正答が①である理由は「_____」!

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。 May 9, 2012 加藤厚

1. 原文は(「答え」ではあっても)「理由」にはなりません。

2. “応用”には「※」が不可欠です。
※

3. p.23 1 (3)の正答が①である理由は「 」!

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。 May 9, 2012 加藤厚

1. 原文は(「答え」ではあっても)「理由」にはなりません。

2. “応用”には「理由の理解」※が不可欠です。

※

3. p.23 1 (3)の正答が①である理由は「 」!

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。 May 9, 2012 加藤厚

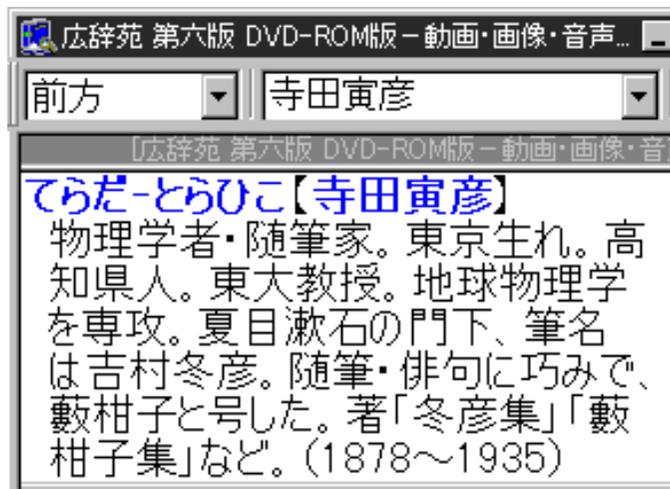
1. 原文は(「答え」ではあっても)「理由」にはなりません。

2. “応用”には「理由の理解」※が不可欠です。
※「優れた文章」が“何故”そう記述されているのか？

3. p.23 1 (3)の正答が①である理由は「 」!

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。 May 9, 2012
加藤厚

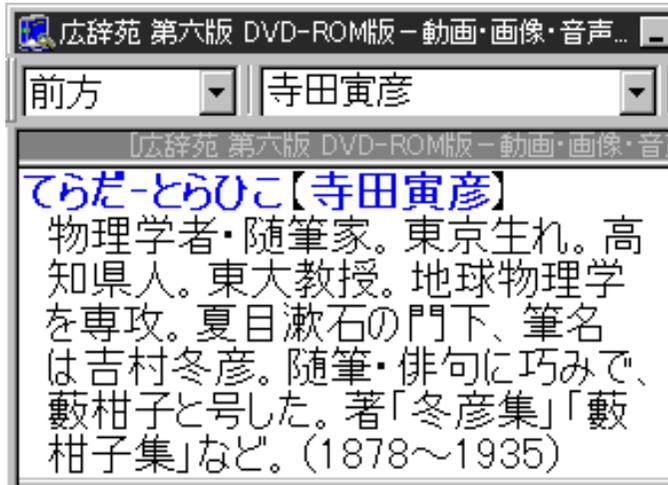
1. 原文は(「答え」ではあっても)「理由」にはなりません。
2. “**応用**”には「**理由の理解**」※が不可欠です。
※「優れた文章」が“何故”そう記述されているのか？



3. p.23 1 (3)の正答が①である理由は「 」!

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。 May 9, 2012
加藤 厚

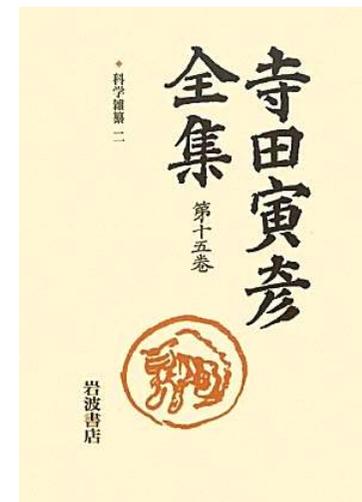
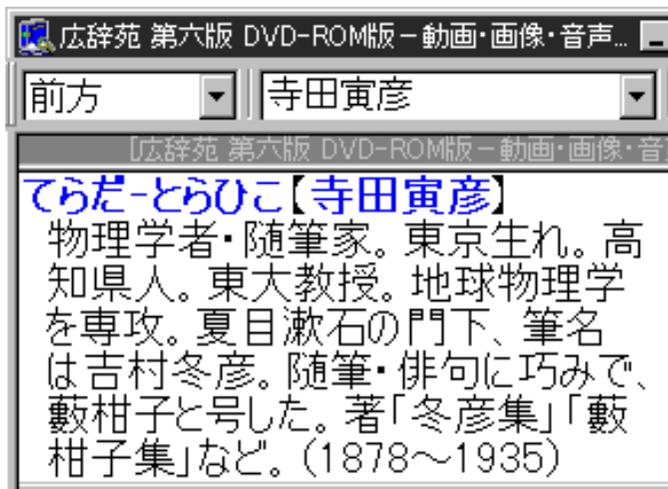
1. 原文は(「答え」ではあっても)「理由」にはなりません。
2. “**応用**”には「**理由の理解**」※が不可欠です。
※「優れた文章」が“何故”そう記述されているのか？



3. p.23 1 (3)の正答が①である理由は「 」!

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。 May 9, 2012
加藤厚

1. 原文は(「答え」ではあっても)「理由」にはなりません。
2. “応用”には「理由の理解」※が不可欠です。
※「優れた文章」が“何故”そう記述されているのか？



3. p.23 1 (3)の正答が①である理由は「 」!

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。 May 9, 2012
加藤厚

①
「草昧の時代」には「自然」
せず、「天変によって破壊

②
「文明が進むに従って」、
「位置エネルギーを蓄積

③ — — — — —

「もう一つ」文明の進歩のために生じた「変化」に「分化」の結果として「部分の傷害」が「致命的となりうる恐れ」がある。

④
「単細胞動物」では「切断しても」「生命を持続」できるが、
「高等動物」は「融通がきか」ず「生命を失」いかねない。

⑤

寺田先生のスタイル分析：

1.③の次の「もう一つ」で話が

2.「分化の結果の恐れ」と「単細胞 vs. 高等」との関係は「 」と「その 」。

3.つまり「 型」。

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。 May 9, 2012
加藤厚

①
「草昧の時代」には「自然」
せず、「天変によって破壊

②
「文明が進むに従って」、
「位置エネルギーを蓄積

③ — — — — —

「もう一つ」文明の進歩のために生じた「変化」に「分化」の結果として「部分の傷害」が「致命的となりうる恐れ」がある。

④
「単細胞動物」では「切断しても」「生命を持続」できるが、
「高等動物」は「融通がきか」ず「生命を失」いかねない。

⑤

寺田先生のスタイル分析：

1.③の次の「もう一つ」で話が進む。

2.「分化の結果の恐れ」と「単細胞 vs. 高等」との関係は「 」と「その 」。

3.つまり「 型」。

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。 May 9, 2012
加藤厚

①
「草昧の時代」には「自然」
せず、「天変によって破壊

②
「文明が進むに従って」、
「位置エネルギーを蓄積

③ — — — — —

「もう一つ」文明の進歩のために生じた「変化」に「分化」の結果として「部分の傷害」が「致命的となりうる恐れ」がある。

④
「単細胞動物」では「切断しても」「生命を持続」できるが、
「高等動物」は「融通がきか」ず「生命を失」いかねない。

⑤

寺田先生のスタイル分析：

1.③の次の「もう一つ」で話が進む。

2.「分化の結果の恐れ」と「単細胞 vs. 高等」との関係は「主張」と「その」。

3.つまり「型」。

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。 May 9, 2012
加藤厚

①
「草昧の時代」には「自然」
せず、「天変によって破壊

②
「文明が進むに従って」、
「位置エネルギーを蓄積

③ — — — — —

「もう一つ」文明の進歩のために生じた「変化」に「分化」の結果として「部分の傷害」が「致命的となりうる恐れ」がある。

④
「単細胞動物」では「切断しても」「生命を持続」できるが、
「高等動物」は「融通がきか」ず「生命を失」いかねない。

⑤

寺田先生のスタイル分析：

1.③の次の「もう一つ」で話が進む。

2.「分化の結果の恐れ」と「単細胞 vs. 高等」との関係は「主張」と「その根拠」。

3.つまり「型」。

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。 May 9, 2012
加藤厚

①
「草昧の時代」には「自然」
せず、「天変によって破壊

②
「文明が進むに従って」、
「位置エネルギーを蓄積

③ — — — — —

「もう一つ」文明の進歩のために生じた「変化」に「分化」の結果として「部分の傷害」が「致命的となりうる恐れ」がある。

④
「単細胞動物」では「切断しても」「生命を持続」できるが、
「高等動物」は「融通がきか」ず「生命を失」いかねない。

⑤

寺田先生のスタイル分析：

1.③の次の「もう一つ」で話が進む。

2.「分化の結果の恐れ」と「単細胞 vs. 高等」との関係は「主張」と「その根拠」。

1.主張(結論)

3.つまり「型」。

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。

①

「草昧の時代」には「自然」
せず、「天変によって破壊

②

「文明が進むに従って」、
「位置エネルギーを蓄積

③

「もう一つ」文明の進歩のために生じた「変化」に「分化」の結果として「部分の傷害」が「致命的となりうる恐れ」がある。

④

「単細胞動物」では「切断しても」「生命を持続」できるが、「高等動物」は「融通がきか」ず「生命を失」いかねない。

⑤

寺田先生のスタイル分析：

1.③の次の「もう一つ」で話が進む。

2.「分化の結果の恐れ」と「単細胞 vs. 高等」との関係は「主張」と「その根拠」。

1.主張(結論)

3.つまり「型」。

2.根拠(理由)

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。 May 9, 2012
加藤厚

①
「草昧の時代」には「自然」
せず、「天変によって破壊

②
「文明が進むに従って」、
「位置エネルギーを蓄積

③ — — — — —

「もう一つ」文明の進歩のために生じた「変化」に「分化」の結果として「部分の傷害」が「致命的となりうる恐れ」がある。

④
「単細胞動物」では「切断しても」「生命を持続」できるが、
「高等動物」は「融通がきか」ず「生命を失」いかねない。

⑤

寺田先生のスタイル分析：

1.③の次の「もう一つ」で話が進む。

2.「分化の結果の恐れ」と「単細胞 vs. 高等」との関係は「主張」と「その根拠」。

1.主張(結論)

3.つまり「頭括型」。

2.根拠(理由)

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。 May 9, 2012
加藤厚

①

「草昧の時代」には「自然に逆らうような大それた企て」はせず、「天変によって破壊されるべき」造営物もなかった。

②

「文明が進むに従って」、自然に抗して作った「造営物」が「位置エネルギーを蓄積させ」却って「災害を大きく」した。

③

「もう一つ文明の進歩の果として「部分の傷害」が

④

「単細胞動物」では「切断」「高等動物」は「融通がき

⑤

4.ここで「草昧・・・」と「文明・・・」との関係は「単細胞 vs. 高等」と同じ___。

5.そして「災害の激烈度の増大」は「文明の進歩の弊害その1」に関する筆者の「___」。

6.“頭括”＝「主張が先」→ ___が○。

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。 May 9, 2012
加藤厚

①

「草昧の時代」には「自然に逆らうような大それた企て」はせず、「天変によって破壊されるべき」造営物もなかった。

②

「文明が進むに従って」、自然に抗して作った「造営物」が「位置エネルギーを蓄積させ」却って「災害を大きく」した。

③

「もう一つ文明の進歩の果として「部分の傷害」が

④

「単細胞動物」では「切断」「高等動物」は「融通がき

⑤

4.ここで「草昧・・・」と「文明・・・」との関係は「単細胞 vs. 高等」と同じ vs.

5.そして「災害の激烈度の増大」は「文明の進歩の弊害その1」に関する筆者の「 」。

6.“頭括”＝「主張が先」→ が○。

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。

①

「草昧の時代」には「自然
せず、「天変によって破壊

②

「文明が進むに従って」、
「位置エネルギーを蓄積

③

「もう一つ文明の進歩の
果として「部分の傷害」か

④

「単細胞動物」では「切断
「高等動物」は「融通がき

⑤

ここで一つ考えなければなら
ないことで、しかもいつも忘れられ
がちな重大な要項がある。それ
は、文明が進めば進むほど天然
の暴威による災害がその激烈の
度を増すという事実である。

4.ここで「草昧・・・」と「文明・・・」との関
係は「単細胞 vs. 高等」と同じ vs.。

5.そして「災害の激烈度の増大」は
「文明の進歩の弊害その1」に関
する筆者の「 」。

6.“頭括”＝「主張が先」→ が○。

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。

①

「草昧の時代」には「自然
せず、「天変によって破壊

②

「文明が進むに従って」、
「位置エネルギーを蓄積

③

「もう一つ文明の進歩の
果として「部分の傷害」か

④

「単細胞動物」では「切断
「高等動物」は「融通がき

⑤

ここで一つ考えなければなら
ないことで、しかもいつも忘れられ
がちな重大な要項がある。それ
は、文明が進めば進むほど天然
の暴威による災害がその激烈の
度を増すという事実である。

4.ここで「草昧・・・」と「文明・・・」との関
係は「単細胞 vs. 高等」と同じ vs.。

5.そして「災害の激烈度の増大」は
「文明の進歩の弊害その1」に関
する筆者の「主張」。

6.“頭括”＝「主張が先」→ が○。

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。

①

「草昧の時代」には「自然
せず、「天変によって破壊

②

「文明が進むに従って」、
「位置エネルギーを蓄積

③

「もう一つ文明の進歩の
果として「部分の傷害」か

④

「単細胞
「高等動

⑤

ここで一つ考えなければなら
ないことで、しかもいつも忘れられ
がちな重大な要項がある。それ
は、文明が進めば進むほど天然
の暴威による災害がその激烈の
度を増すという事実である。

4.ここで「草昧・・・」と「文明・・・」との関
係は「単細胞 vs. 高等」と同じ vs.。

5.そして「災害の激烈度の増大」は
「文明の進歩の弊害その1」に関
する筆者の「主張」。

6.“頭括”＝「主張が先」→ が○。

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。

May 9, 2012
加藤厚

①

「草昧の時代」には「自然
せず、「天変によって破壊

②

「文明が進むに従って」、
「位置エネルギーを蓄積

③

「もう一つ文明の進歩の
果として「部分の傷害」か

④

「単細胞
「高等動

1.主張(結論)

⑤

ここで一つ考えなければならないことで、しかもいつも忘れられがちな重大な要項がある。それは、文明が進めば進むほど天然の暴威による災害がその激烈の度を増すという事実である。

4.ここで「草昧・・・」と「文明・・・」との関係は「単細胞 vs. 高等」と同じ vs.。

5.そして「災害の激烈度の増大」は「文明の進歩の弊害その1」に関する筆者の「主張」。

6.“頭括”＝「主張が先」→ が○。

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。

①

「草昧の時代」には「自然
せず、「天変によって破壊

②

「文明が進むに従って」、
「位置エネルギーを蓄積

③

「もう一つ文明の進歩の
果として「部分の傷害」か

④

「単細胞
「高等動

1.主張(結論)

2.根拠(理由)

⑤

ここで一つ考えなければならないことで、しかもいつも忘れられがちな重大な要項がある。それは、文明が進めば進むほど天然の暴威による災害がその激烈の度を増すという事実である。

4.ここで「草昧・・・」と「文明・・・」との関係は「単細胞 vs. 高等」と同じ vs.。

5.そして「災害の激烈度の増大」は「文明の進歩の弊害その1」に関する筆者の「主張」。

6.“頭括”＝「主張が先」→ が○。

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。

①

「草昧の時代」には「自然
せず、「天変によって破壊

②

「文明が進むに従って」、
「位置エネルギーを蓄積

③

「もう一つ文明の進歩の
果として「部分の傷害」か

④

「単細胞
「高等動

⑤

1.主張(結論)

2.根拠(理由)

ここで一つ考えなければならないことで、しかもいつも忘れられがちな重大な要項がある。それは、文明が進めば進むほど天然の暴威による災害がその激烈の度を増すという事実である。

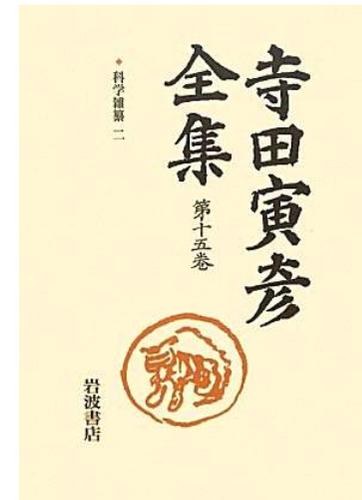
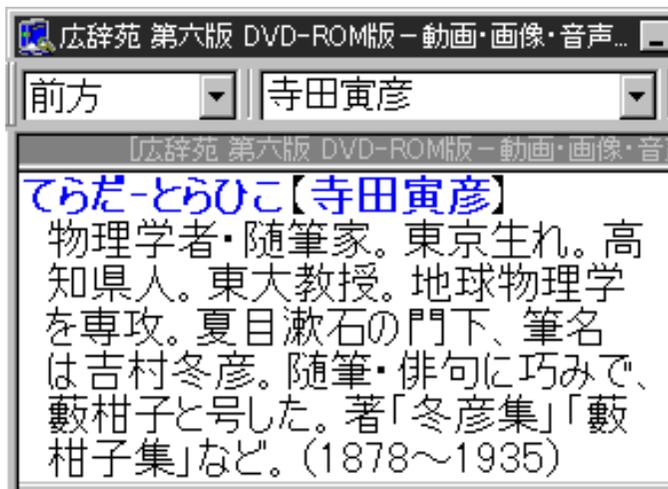
4.ここで「草昧・・・」と「文明・・・」との関係は「単細胞 vs. 高等」と同じ vs.。

5.そして「災害の激烈度の増大」は「文明の進歩の弊害その1」に関する筆者の「主張」。

6.“頭括”＝「主張が先」→①が○。

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。 May 9, 2012
加藤 厚

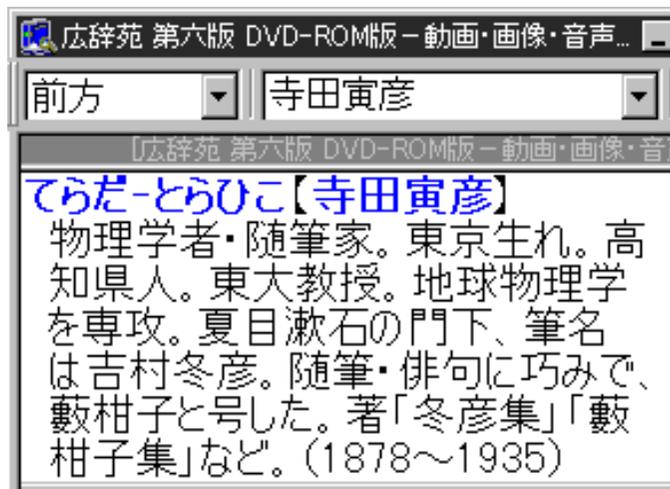
1. 原文は(「答え」ではあっても)「理由」にはなりません。
2. “応用”には「理由の理解」※が不可欠です。
※「優れた文章」が“何故”そう記述されているのか？



3. p.23 1 (3)の正答が①である理由は「 」!

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。 May 9, 2012
加藤厚

1. 原文は(「答え」ではあっても)「理由」にはなりません。
2. “応用”には「理由の理解」※が不可欠です。
※「優れた文章」が“何故”そう記述されているのか？



3. p.23 1 (3)の正答が①である理由は「頭括」!

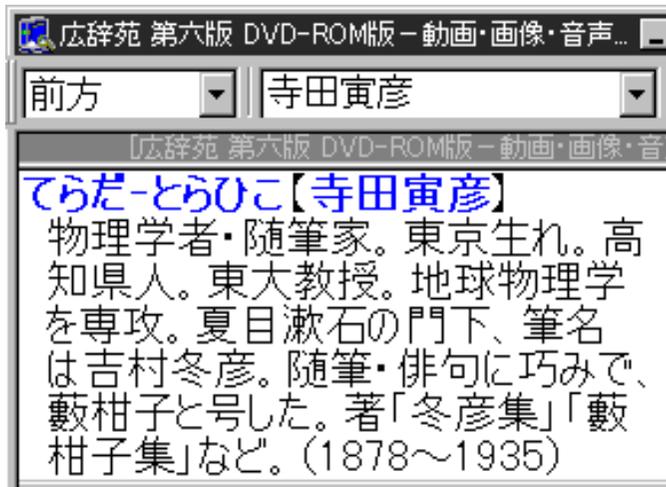
読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。

1. 1.主張(結論)
2. 2.根拠(理由)

ても)「理由」にはなりません。

理解」※が不可欠です。

※「優れた文章」が“何故”そう記述されているのか？



3. p.23 1 (3)の正答が①である理由は「頭括」!

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。 May 9, 2012 加藤厚

1. 原

2. “

※「

広
前カ

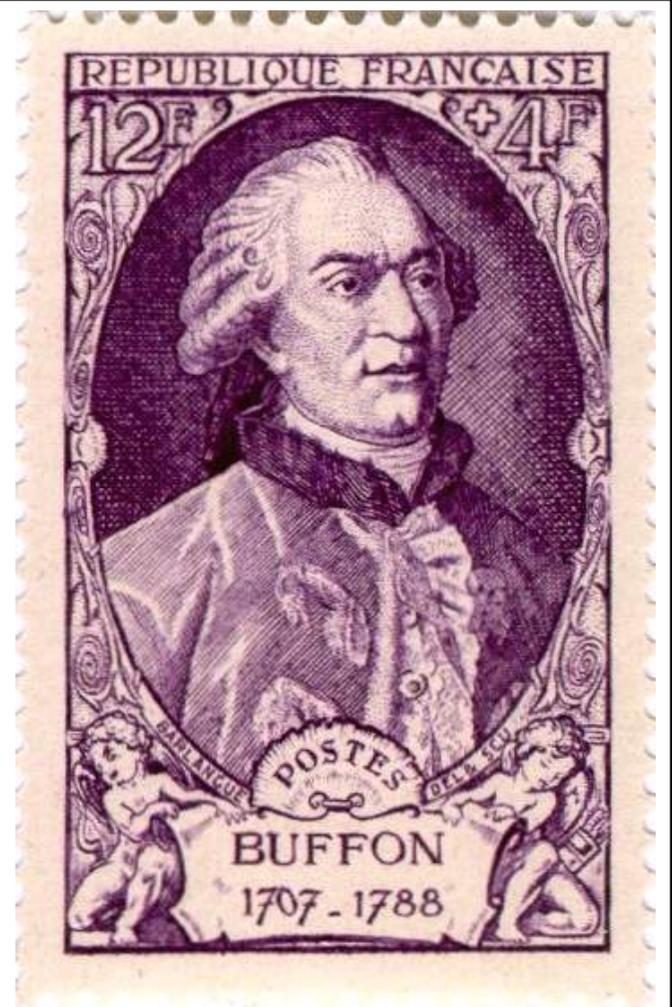
ては
物知
を
は
藪柑

≡

≡

。

☆ (折角の)内容を明確に伝える基本、それは「 こと」です。



3. p.23 ① (3)の正答が①である理由は「頭括」!

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。 May 9, 2012 加藤厚

1. 原

2. “

※「

広
前カ

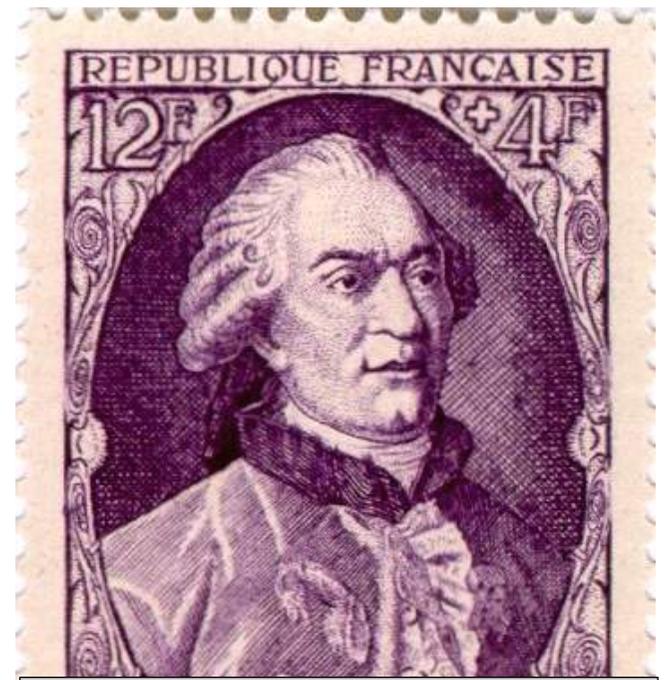
ては
物
知
を
は
藪
柑

≡

≡

。

☆ (折角の)内容を明確に伝える基本、それは「 こと」です。



広辞苑 第六版 DVD-ROM版 - 動画・画像・音声付き - Log
ビュフォン【Georges-Louis Leclerc de Buffon】
フランス啓蒙期の博物学者・哲学者。地球の生成・歴史に関する推測を述べ、生物進化の観念を提起。進化論の先駆者。主著「博物誌」「文体論」。(1707～1788)

3. p.23 ① (3)の正答が①である理由は「頭括」!

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。 May 9, 2012 加藤厚

1. 原

2. “

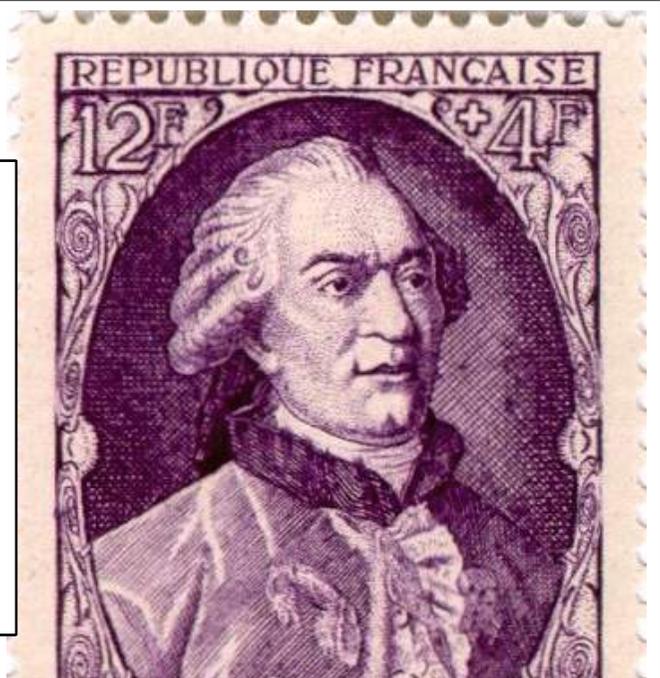
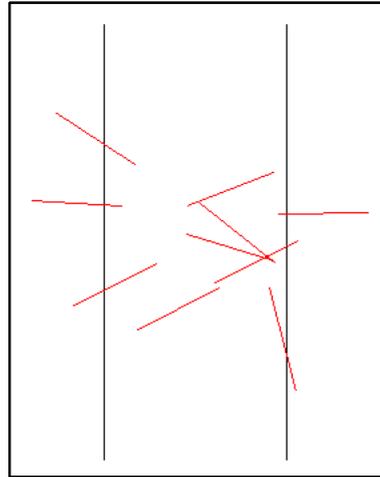
※「

広
前カ

てら
物
知
を
は
藪
柑

≡

≡



☆ (折角の)内容を明確に伝える基本、それは「 こと」です。

広辞苑 第六版 DVD-ROM版 - 動画・画像・音声付き - Log
ビュフォン【Georges-Louis Leclerc de Buffon】
フランス啓蒙期の博物学者・哲学者。地球の生成・歴史に関する推測を述べ、生物進化の観念を提起。進化論の先駆者。主著「博物誌」「文体論」。(1707～1788)

3. p.23 1 (3)の正答が①である理由は「頭括」!

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。 May 9, 2012 加藤厚

1. 原

2. “

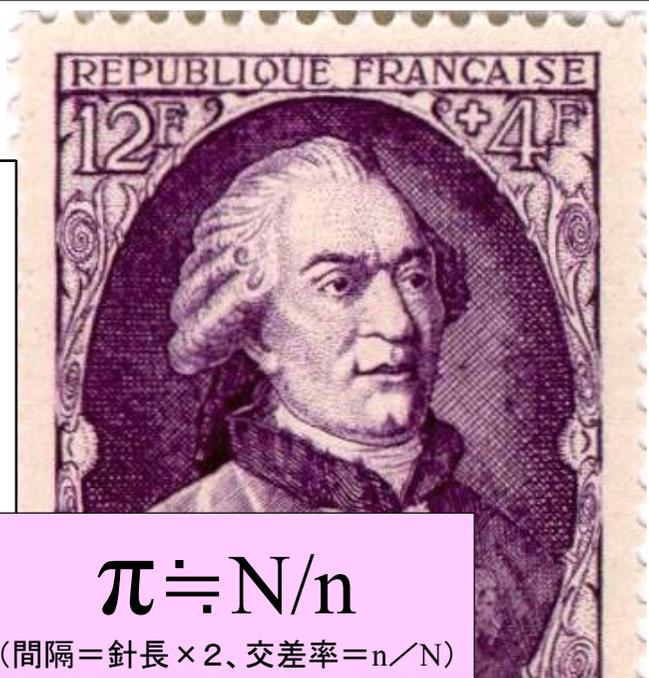
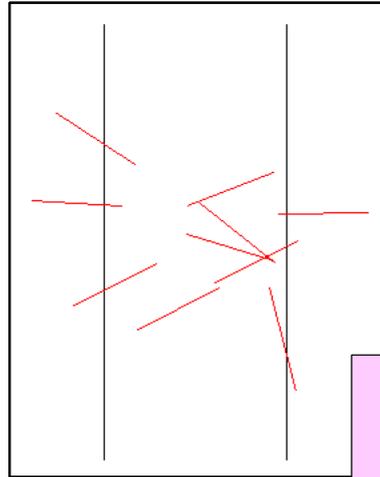
※「

広
前

て
物
知
を
は
藪
柑

≡

≡



$$\pi \equiv N/n$$

(間隔 = 針長 × 2、交差率 = n/N)

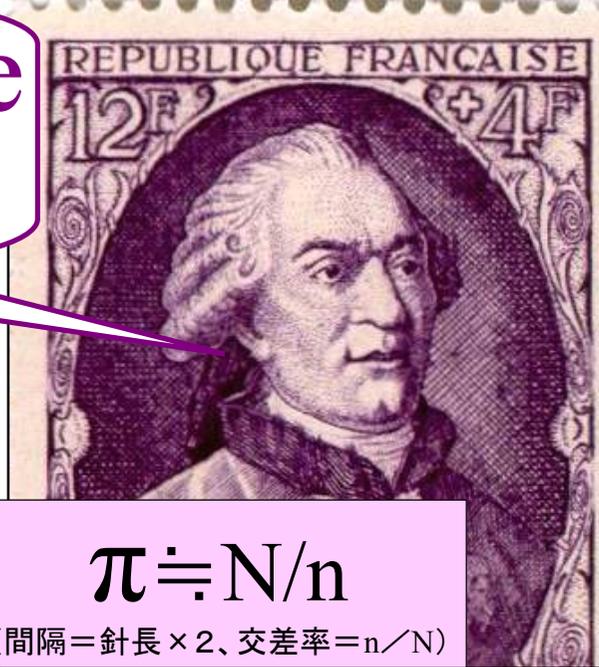
☆ (折角の) 内容を明確に伝える基本、それは「 こと」です。

広辞苑 第六版 DVD-ROM版 - 動画・画像・音声付き - Log
ビュフォン【Georges-Louis Leclerc de Buffon】
 フランス啓蒙期の博物学者・哲学者。地球の生成・歴史に関する推測を述べ、生物進化の観念を提起。進化論の先駆者。主著「博物誌」「文体論」。(1707~1788)

3. p.23 1 (3)の正答が①である理由は「頭括」!

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。 May 9, 2012 加藤厚

Le style est l'homme même.



$\pi \doteq N/n$
 (間隔 = 針長 × 2、交差率 = n/N)

☆ (折角の) 内容を明確に伝える基本、それは「 こと」です。

広辞苑 第六版 DVD-ROM版 - 動画・画像・音声付き - Log
 ビュフォン【Georges-Louis Leclerc de Buffon】
 フランス啓蒙期の博物学者・哲学者。地球の生成・歴史に関する推測を述べ、生物進化の観念を提起。進化論の先駆者。主著「博物誌」「文体論」。(1707~1788)

3. p.23 1 (3)の正答が①である理由は「頭括」!

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。 May 9, 2012 加藤厚

Le style est l'homme même.

1. 原

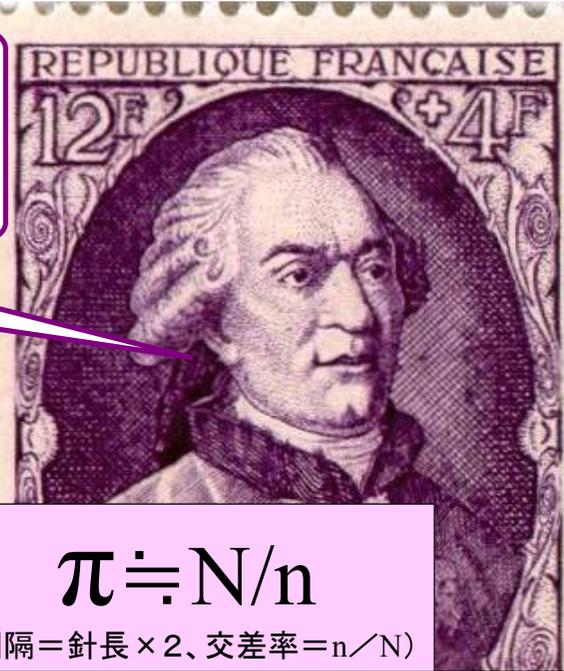
2. “

※「

≡ The style is the man him/herself.

≡ 文は人なり。

☆ (折角の)内容を明確に伝える基本、それは「整えること」です。



$$\pi \doteq N/n$$

(間隔=針長×2、交差率=n/N)

デュフォン【Georges-Louis Leclerc de Buffon】

フランス啓蒙期の博物学者・哲学者。地球の生成・歴史に関する推測を述べ、生物進化の観念を提起。進化論の先駆者。主著「博物誌」「文体論」。(1707～1788)

3. p.23 ① (3)の正答が①である理由は「頭括」!

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。 May 9, 2012 加藤厚

Le style est l'homme

1. 原

2. “

※「

man

≡ 文

①用語(定義)を、
 ②主語と述語を、
 ③題目と段落を、
 ④根拠と論理を、
 ⑤接続と形式を。

☆ (折角の) 内容を明確に伝える基本、それは「整えること」です。

$\pi \doteq N/n$
 (間隔 = 針長 × 2、交差率 = n/N)

広辞苑 第六版 DVD-ROM版 - 動画・画像・音声付き - Log

ビュフォン【Georges-Louis Leclerc de Buffon】
 フランス啓蒙期の博物学者・哲学者。地球の生成・歴史に関する推測を述べ、生物進化の観念を提起。進化論の先駆者。主著「博物誌」「文体論」。(1707～1788)

3. p.23 1 (3)の正答が①である理由は「頭括」!

読解・整序：論旨展開のスタイルを知る。 May 9, 2012 加藤厚

1. 原

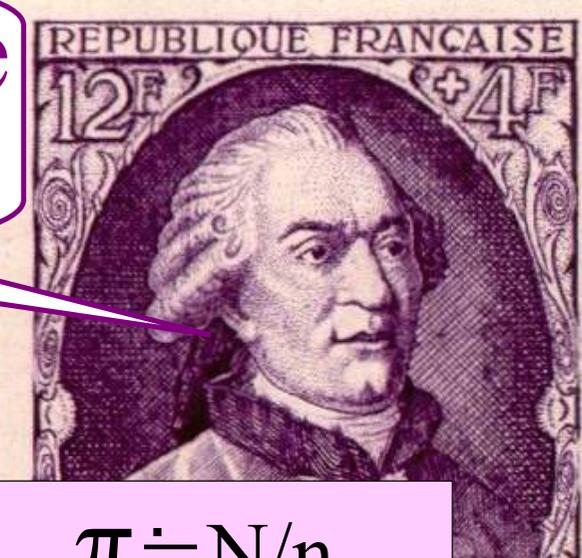
2. “

※「

man

≡ 文

Le style est l'homme



REPUBLICQUE FRANCAISE
12F 4F

$\pi \equiv N/n$

①用語(定義)を、
②主語と述語を、
③題目と段落を、
④根拠と論理を、
⑤接続と形式を。

接続: 例示の「例えば」、根拠の「なぜなら」、
結論の「従って」、対比の「一(他)方」..
形式: 頭括・尾括・双括、序論→本論→結論、
問題と目的→方法→結果と考察..

☆ (折角の) 内容、
伝える基本、
「整えること」です。

生物進化の観念を提起。進化論の先
駆者。主著「博物誌」「文体論」。(
1707~1788)

3. p.23 1 (3)の正答が①である理由は「頭括」!